

Telecommuting and Equilibrium Urban Structures in Metropolitan Areas

太田 充*

Mitsuru Ota

Abstract

情報化の進展によって都市構造が変化するケースとして、家計が郊外に居たままで業務の遂行が可能となる、いわゆる在宅勤務のケースに焦点をあてて、都市の一般均衡モデルを構築し分析を行った。本モデルにおいて、家計は、通常の通勤を行うか、固定費を負担した上で、テレコミュニケーションを行うかを選択する。このモデルにおける全てのパラメータ空間を明らかにするとともに、同一パラメータでの都市構造の複数均衡の存在を確認した。さらに、それぞれの均衡の社会的厚生を計算することによりテレコミュニケーションの最適都市形状への影響を分析した。

JEL classification: R14, R30, L20

Keywords: telecommuting, configuration of the city

*筑波大学大学院システム情報工学研究科